

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401020		
法人名	有限会社 ケアメール		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	札幌市西区西野2条5丁目5-3ラメール西野		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成24年11月12日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokouhou.jp/kaijokouhou/InformationPublic.do?JCD=0170401020&amp;CD=320&amp;PCD=01">http://www.kaijokouhou.jp/kaijokouhou/InformationPublic.do?JCD=0170401020&amp;CD=320&amp;PCD=01</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が、資格取得や知識・技術の向上が出来るよう、外部から講師を依頼し、認知症への理解を専門的な見解から学べるよう機会を設けている。また、外部研修に参加しやすいように、シフトを融通したり、参加費・交通費をホームで負担し、積極的に参加できるように働きかけている。さらに、外部研修で学んだことを、講師となり内部研修で発表する等、職員同士が切磋琢磨し、勉強することへの意欲を持てるような環境作りを目指している。

職員は、業務を優先させるのではなく、利用者のその日の心身状態を見極め、希望や思いを重視し、気軽に散歩や外出に出かけられるよう、ホーム全体での連携に取り組んでいる。また、趣味ややりがいをもち、生き活きと暮らせる環境作りを日々模索し、実践するよう取り組んでいる。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年10月26日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパー・コンビニ・警察署・銀行や、商店街等の繁華街が近く、利便性が良い。鉄筋4階建ての女子学生会館を改装し、1階は事務室や多目的ホール等、2・3階がグループホーム、4階は高齢者下宿になっている。地域住民は事業所の避難訓練や運営推進会議に参加し、保育園児やボランティアの訪問もある。利用者は、散歩や買物時に近隣住民と気楽に挨拶を交わし、町内会主催の季節の行事に参加し良好な関係を築いている。また他のグループホームを訪問し、餅つきやクリスマス会に参加している。管理者及び職員は、利用者それぞれの思いを大切に、何を求め何を望んでいるかを把握するように努めており、単調になりがちなホームでの生活が活性化できるよう、ドライブ外出や夕食等、楽しみ事の支援を行なっている。また身体機能に合わせたレクリエーションや運動を日課とし、事所内でも楽しく過ごせるように工夫している。特に個々の希望に合わせ、毎日散歩や買い物に出掛け、新鮮な外気にふれられるよう支援している点は、大変評価できる。恵まれた住環境の中で利用者をやさしく支え、地域に根ざした家庭的で暖かい、事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着型サービスの意義」を踏まえた事業所理念を作るには至っていない。	人間関係や暮らしを大切にする『寄りそう・向き合う・笑顔』の事業所独自の理念とケア理念を作り実践している。地域密着型サービスの意義を反映した理念の作成を、検討中である。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会やごみ拾い、祭り等に参加し、地域とのつながりを持ち、交流を図るよう努めている。	町内の祭りや清掃活動に参加している。事業所の避難訓練や運営推進会議には地域の人達が参加しており、保育園児やボランティアの訪問もある。	玄関前の分かり易い位置に看板の設置・町内の回覧板に掲載依頼・地域住民が参加できる事業所祭りや、介護・医療等の講座開催など、事業所からの積極的な発信で、地域の方々には事業所を理解してもらえよう期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けるには至っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に日々のサービス提供、地域との関わりや防災訓練について話し合い、頂いた意見をサービスに取り入れていけるよう努めている。	定期的開催している運営推進会議には、行事予定と報告・地域との交流・防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。議事録は整備し利用者家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に実情を伝え、意見をもらっている。行政との必要に応じ連絡体制が取れている。	グループホーム協議会や管理者連絡会議などに参加して情報を共有し、行政方針の理解に努め、常に利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由により居室以外は施錠しているが、身体拘束は行っていない。内部・外部研修を行い周知・徹底している。	玄関入口は自動ドアで、夜間以外施錠していない。身体拘束や虐待に関しては事業所内研修を行い、利用者の自由な生活を支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ管理者や職員は、内部研修にて講師として他スタッフに伝えていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーは、外部研修にて学んでいるので、職員と話し合う場を設けて行きたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点があれば、十分な理解を得られるよう努め、説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、家族代表の方に意見を頂き、他のご家族には、連絡を取った際や訪問時に意見を聞き、サービスに取り入れている。意見箱の設置をしている。	意見箱を設置している。家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映するよう努力している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程度、リーダーを通し、職員の意見や要望を聞く機会を設け、改善・向上するよう努めている。	月1度の全体会議や個人面談で、意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度の面談を通し、個々の努力や意欲を把握し、ベースアップ・正社員登用の制度を整備している。有休は、出来る限り個人の希望に沿って消化できるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に職員が外部研修に参加できるよう配慮し、内部研修にて情報を共有し、勉強会等の機会を設け、資格取得や能力向上に意欲を持てるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修に、他施設から講師や職員を招いたり、他ホームを見学できるような体制を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族からの情報を参考にして会話をしたり、日々の様子を観察することで、要望を把握し信頼関係作りに結び付けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望を十分に受け止め、理解することでケアに反映できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用した実績はないが、必要であれば検討したい。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ともに暮らすという意識を持ち、利用者の意向を尊重した生活が送れるよう心がけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来られるような関係を築き、訪問の際には家族が要望を発しやすい関係作りを心がけている。遠方のご家族には、定期的に電話にて連絡を取っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、親戚等と手紙のやりとりをしたり、電話が出来るよう支援している。	昔からの年中行事を大切に、毎年1月2日には利用者全員で書初めをしている。他に家族同伴で墓参りや初詣に行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげなくスタッフが介入することで、利用者同士のトラブルを未然に防ぎ、利用者同士の良好な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後においても家族からの相談に応じ、必要に応じ訪問したり、転居先で落ち着くまでの経過をフォローしている。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から細やかな聞き取りをすることで、希望や意向の把握に努めている。	センター方式を活用し、家族から得た情報や過去の生活歴を基に、本人の思いや暮らし方の希望や意向をくみ取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは会話の中で把握できるよう努め、不十分なところはご家族より情報を頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者の表情を観察し、小さな変化にも気をつけながら、出来る限り個別に対応出来るよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に変化があった時には、家族を交えてカンファレンスを行い、モニタリングにて他スタッフと共有し、介護計画に反映させている。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、心身の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師・看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録様式を工夫し、簡潔で見やすくすることにより、情報を共有しやすくしている。申し送りや連絡ノートと併せて共有することで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の対応が難しい場合は、日用品・衣類等の買い物代行したり、個々の希望に合わせて外出等行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街での買い物、ごみ拾い等に参加している。隣のホームでの移動販売に行き、買い物や交流を楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の要望や病状に応じ、往診以外の医師にも迅速に受診に付き添う等対応している。	2週に1度の協力病院医師の訪問診療や、訪問看護師による健康管理は週に1度行っている。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように、通院支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を伝え、相談等を行い、ケアに反映させている。変化があった場合は、連絡し必要に応じ訪問してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切な情報交換を行い、良好な関係作りに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応は、入居時に説明している。終末期については、重度化する前に本人やご家族の意向を確認し、医師と相談しながら意向を取り入れていくことを説明している。	本人・家族の意向・要望をもとに、協力医療機関との連携体制を含め、重度化や終末期への方向性や指針を、文書で確認し支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は急急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、管理者に連絡し、指示のもと対応している。明確なマニュアルの整備と定期的な訓練も取り入れていきたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練を行っている。地域の代表の方にも参加してもらっている。	年2回、消防署の協力のもと利用者と共に避難訓練を行っている。地域には参加を呼びかけ協力を得ている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重したケアを心がけ、実践している。	プライバシーを損ねる事がないように、日頃から個人を尊重した言葉がけに配慮している。会議等で職員への意識付けに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な会話を持ち、表情を良く観察することで、本人の思いを汲み取り、自己を表して頂けるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等の外出を希望される場合は、出来る限り業務優先ではなく、その日に行けるように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選ぶ等、本人の意向にそった支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人の希望や得意なことに合わせて、食事作りや後片付けに参加して頂いている。</p>	<p>利用者の嗜好や嚥下状態を考慮した献立を作成している。調理・盛り付け・後片付け等を一緒に行い、共にテーブルを囲み和やかに食事をしている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日1,000～1,500ccの水分摂取が出来るよう調整している。個別に刻み食やとろみをつけ、食べやすい工夫して提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>訪問歯科の指導のもとに、個々に合わせて見守り、声かけ、介助を行い口腔ケアを提供している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。本人の自尊心に配慮した支援を心がけている。</p>	<p>個々に合わせた排泄の自立を支援している。利用者の尊厳に配慮し、トイレ内に目隠しカーテンを設置し、床には消毒用マットを置き、衛生面にも配慮している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>乳製品や食物繊維を多く含む食品を提供し、便秘の予防に努めている。必要に応じて、便秘薬や座薬を使用することもある。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>体調管理を行いながら、本人の希望により入浴して頂いている。特に希望がない場合は、週2回以上入浴できるよう、日時を決めることもある。</p>	<p>利用者の希望に合わせた時間に入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者には、声かけや好みの入浴剤を使うなど、工夫をしながら支援をしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の意向や体調に配慮し、必要に応じ昼寝をして頂く等、個別に対応している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師や看護師の指示のもと、薬の作用や理解に努めている。副作用のある薬については、特にスタッフ間で周知徹底し、状態の観察を慎重に行っている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の出来ること、したい事を見極め、各々に合った役割や楽しみを持って頂き、張り合いや喜びを持てるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣への散歩や買い物、ドライブに行っている。季節行事として花見や祭り、バザー等外出の機会を多く設けている。	心身の活性化につながるよう、日常的に近隣散歩や買い物に出掛けており、花見や紅葉狩り等の行事外出やレストランでの外食も積極的にし、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、出来る限り本人の希望に応じている。自室に財布を持っているかたもいて、支払を本人にして頂く場合もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話をして頂いている。また、ご家族との対話の機会を持てるよう働きかけることもある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保つよう心掛けている。また、季節に合った飾り付けをし、四季を感じて頂けるよう工夫している。	共用空間であるリビングの壁や廊下には、利用者の手芸作品や行事写真が飾られている。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レク等の時間でも、本人の希望を優先した空間を保てるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やその配置について、ご本人やご家族の意向にそった部屋作りを行っている。	居室には洗面台が設置されており、各家庭から馴染みの家具や日用品を持参し、家族写真や思い出の品が飾られている。ドアは防火扉になっており安全面にも配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫し、手すりを多く設置し、安全な環境作りに努めている。また、表札等掲げることで、わかりやすい空間作りを行っている。		